

夕刊通信

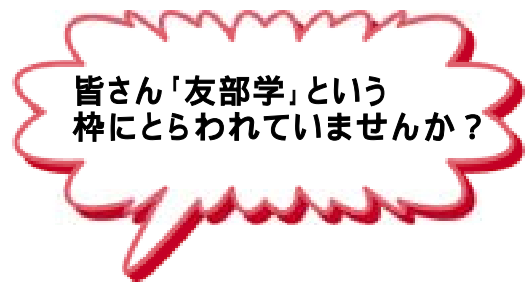
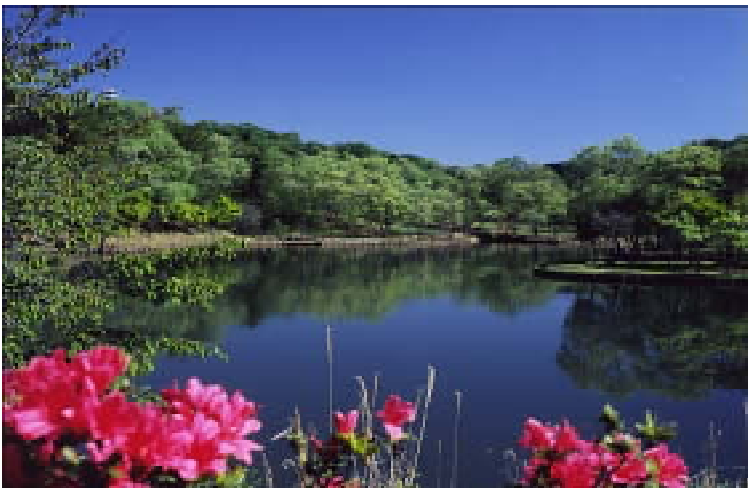
『友部学』豊かな明日へのナビゲ-夕- NO.6

2003年8月：編集・発行：友部学推進本部

『友部』で学ぶ、『友部』を学ぶ、『共』に学ぶ
そして自分のことから実践活動・・・これが『友部学』

友部学推進本部が設立されて一年

この一年、推進本部員そして町民の皆さんにご協力を得て、進めてきました。
今年は、7月にまちづくり推進大会を開催、また第2回目の友部学まちづくり講座も実施予定です。
そのほかモデル事業指定団体と連携や学校・地域とも協力しながら推進していきたいと考えております。
友部学そしてまちづくりは町民の皆さん一人ひとりが主役です。今後とも様々な場面で、町民参画・町民参加を考えていきますので、ご参加とご協力をよろしくお願ひします。



友部学だから新しいことを
友部学だからこのようにしなくては
友部学だから・・・

この美しい北山の自然を未来に残したいという思い

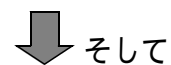
私たちのふるさと「ともべ」を思い、自分たちのまちを考え、そして自分たちの出来る範囲で、自分たちのやり方で取り組むそれが『友部学』です。

～ 私たちのふるさと ともべ
そして将来を担う子どもたちのため
私たちができることから 共に行動しましょう ～



友部町民の幸せづくり

共援 共創 行政運営の中心に「町民の参画」を置く
ともべのまちを「町民と行政のパートナーシップ」
で創り上げていく



共感 共生 **そして**
みんなが「ふるさと友部」を誇りに感じられる
みんなが共に生きる「町民の幸せ」を実現する

平成15年度友部学モデル事業 指定団体 今年度は、3団体を指定しました

すみれの“WA”

今年度から図書館ボランティアとして登録し、主に小学生以下を対象として読み聞かせなどの活動をしています。

コロナの会

地域内の高齢者の健康づくりと地域活性化のため積極的に各種活動に取り組んでいます。

友部さくらの会

町内への桜苗木の植樹及び除草・消毒作業を住民が主体となって行っています。

地域をつくるのは皆さんです

・・・地域住民との交流を推進・・・

学校が核となり、拠点となって地域住民との関わり合いを深めて、まちづくり・地域づくりを図っていくことは非常に大切です。

大原小学校では、校舎が完成して依頼、様々な取り組みをしています。

その一つとして学校と保護者、地域住民が一体となり、「ふれあいコンサート」が実施されました音楽を通してまたスポーツを通じての親子そして地域の交流が町全体に広がることを期待します。

友部学の推進に協力して いただける方を募集します

友部学推進本部では、友部学の各種委員会で活動できる方を募集しています。

活動はボランティアですが、いっしょに友部学を進めてみたい方・まちづくりに興味のある方年齢・性別は問いません。

問い合わせは友部学推進本部事務局まで

「まちづくり宍戸塾」でアンケート調査、ホタルマップの作成

まちづくり宍戸塾では、発足して2年経ち今後の運営の参考にしようとアンケート調査を行ないました。

アンケートは、宍戸小学校区全戸に配布され1,115件(回答率60.7%)の回答を得ました。内容をみると、「宍戸塾の活動」について知っているかと答えた方が69.2%、「広報誌ししどだより」を読んだことがあるかと答えた方が68.9%で、ほぼ7割の人が広報誌を読み、活動を知っていることが伺えますが、その反面「宍戸塾の事業」に参加したことがあるかと答えた方は、13.3%、「今後の活動」に参加したいと答えた方は、30.6%と低く、今後地域に根ざした事業の展開と活動内容のPRをどのように行なっていくかが課題となっているようです。

また、宍戸塾環境保全委員会では、平成13年から調査を行ない「宍戸小学区内ホタルマップ」を作成し、宍戸地区各戸に配布しました。マップ作成にあたっては、児童や地域での聞き取りと現地調査を行なったそうです。今後は「ホタルの里づくり」に向けて更なる事業の展開が望まれるところです。



友部学の情報を皆さんへ

町で毎月発行している「広報ともべ」の紙面上、「友部学の窓」として友部学の推進状況をお知らせすることになりました。是非ご覧ください。

『友部学推進本部事務局』

友部町役場 町長公室 企画課 まちづくり推進室

TEL: 0296-77-1101(内線323) FAX: 0296-78-0612

E-mail: machi-z@town.tomobe.ibaraki.jp

友部学まちづくり 推進大会の開催 みんなでつくる地域と環境

7月19日、町中央公民館において第2回友部学まちづくり推進大会を開催しました。この大会は、町民の皆さんにまちづくりへの提案をしてもらい、住民が主体となった地域づくりをみんなで考えること、そしてあらゆる視点から町を見つめ直す機会をつくるために開催したものです。当日は、延べ453人の町民の方々にご参加いただき、盛会に行なうことが出来ました。

モデル事業活動報告

平成14年度モデル事業の活動報告がされました。

友部町文化協会「ゆう・友文化スクール」

友部町文化協会は、昭和57年に発足、現在26団体が加盟し約800人の会員がいます。これまでに協会として文化講演会や音楽会などを行なってきました。「ゆう・友文化スクール」は、創立20周年を記念して行なわれたもので、子どもから高齢者まで楽しく学べるスクールでした。

柿橋団地「きらくの会」

きらくの会は、高齢者を中心に地域活性化のために活動を行なっています。活動は、ゴミ減量化などの地域生活に関係した講座、子ども会と連携したボランティア活動、地域交流活動など年度計画をたて様々な活動に取り組んでいます。

心にとどけの会

世代を担う子どもたちに伝えたいという思いから平成7年に活動をはじめました。活動は、地域の歴史や人々の暮らしなどを文集にまとめるというもので、各小学校をめぐって朗読ボランティアを行なっています。年に一集ずつ作り続け、今までに6集をまとめ上げ、今年は音楽を取り入れたキャラバン隊を編成し、さらなる活動の充実を図って行きます。



〔パソコン映像でプランを説明〕

友部学まちづくり講座 からの提案

昨年から実施している友部学まちづくり講座参加者がつくり上げたまちづくりプランの提案です。プランは、教育、産業、福祉等の分野から参加者自らテーマを決めて、検討・研究をする中で課題を見つけ解決策をまとめたものです。発表は、各班の代表者が映像を交え説明しました。

第1班「住みよい地域づくり相談センター設置」

何でも相談出来る「総合窓口」を役場ロビーに設置し、情報の共有・一元化を図る



まちづくりの発信基地の役割

第2班「知的障害者にも働く場を」

役場ロビーに知的障害者の社会自立のための働く場「コーヒーショップ」をつくる。運営はボランティアや地元支部社協女性部が協力



知的障害者と健常者との交流がどこでも行われている・・・
そんな福祉の町の実現を

第3班「友部町昭和歴史館をつくろう」

昭和の生活体験、戦争体験を子どもたちに伝えたい。体を使って体験できる昭和の歴史館をつくる。



昭和を生き抜いた祖父母
昭和を支えた父母
そして平成の子どもたちへ

第4班「見直そう友部の栗」

生産量は茨城県が全国一、当町は県内7位の生産量がある。そんな栗をつかってのまちおこし・・・「スイートマロン」マロンゼリー、栗まつり、直売所ほか



笑顔・クリ・クリ・友部の栗
栗のまちともべ・ともべの栗

第2部 友部町環境フォーラム

友部小学校「学校ビオトープ活動」

ビオトープとは、地域の野生の生き物たちが自立して生息・生育する空間を意味します。友部小学校では、学校敷地内に生き物が暮らせる池を造り、総合学習などを活用して観察を行ない生き物が生息する自然環境の仕組みや自然の大切さを学んでいます。第2回全国学校ビオトープコンクール(2001年)奨励賞

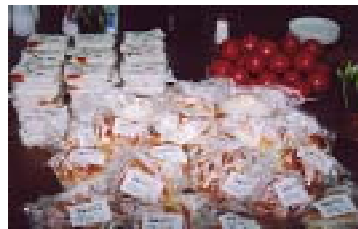
友部中学校「学校環境美化活動」

友部中学校では、緑化委員会を中心に全生徒が積極的に花づくり(花壇整備)をし、保護者や地域の協力を得ながら美しい学校づくりに取り組んでいます。友部中学校の正門はいつも花でいっぱい。当日の会場は、友部中学校からのプランタで埋め尽くされました。2002年度全日本学校緑化コンクールで特選(茨城県で特選を受賞するのは25年ぶり2回目)



〔小中学校による活動発表

・・・みんなちょっと緊張してるかな
発表はとてよかったです〕



〔300食用意した試食
コーナーも好評でした〕

基調講演『身近な自然の保全と活用』

宍塚の自然と歴史の会 副理事長 佐々木哲美さん

「友部学の“共に実践する”というのは宍塚でも同じ思いで活動をしている。」という話からはじまり、宍塚の里山での活動事例が報告されました。土浦市宍塚は、ため池を中心に雑木林などを囲むように広がる100ヘクタールほどの里山です。周囲には、国指定史跡の上高津貝塚など遺跡群も豊富に点在し、歴史的にも大切なところです。全国的に里山の崩壊が進むなか、1989年に会を発足し、貴重な里山を子どもたちに手渡すために様々な活動を続けています。最近では、ため池に繁茂する蓮の刈り取り作業を土浦市から委託されるなど行政との共同認識に立った活動も行なっています。(本年7月NPO法人認証を受ける)



〔活動事例を説明する佐々木さん〕

パネルディスカッション「ともべの環境を考える」

ともべ環境を考える会3名、農村振興・都市計画の立場からそれぞれ1名、計5名のパネリスト、コーディネーターの鯉淵学園涌井教授の進行で行なわれました。ともべ環境を考える会は、昨年から進めている環境基本計画を町民の皆さんとともに策定していくためにつくられた会で、今まで行なってきた水質調査や環境調査の報告がされました。報告では、メダカの棲める環境づくりやため池・史跡を巡る散策コースの発表がありました。農村振興では、平成16年から事業予定の水辺環境整備の報告がされ、特に西池整備について会場参加者からも意見が出されました。都市計画では、マスタープランの内容が報告され「水・人・緑」の都市像を目指し、町民・事業者・行政による「協働」の都市づくりを推進することが発表されました。



〔鯉淵学園 涌井教授の進行で活発な
意見交換が行なわれた〕